

1-a

患者満足度(外来患者) 満足

指標の意義

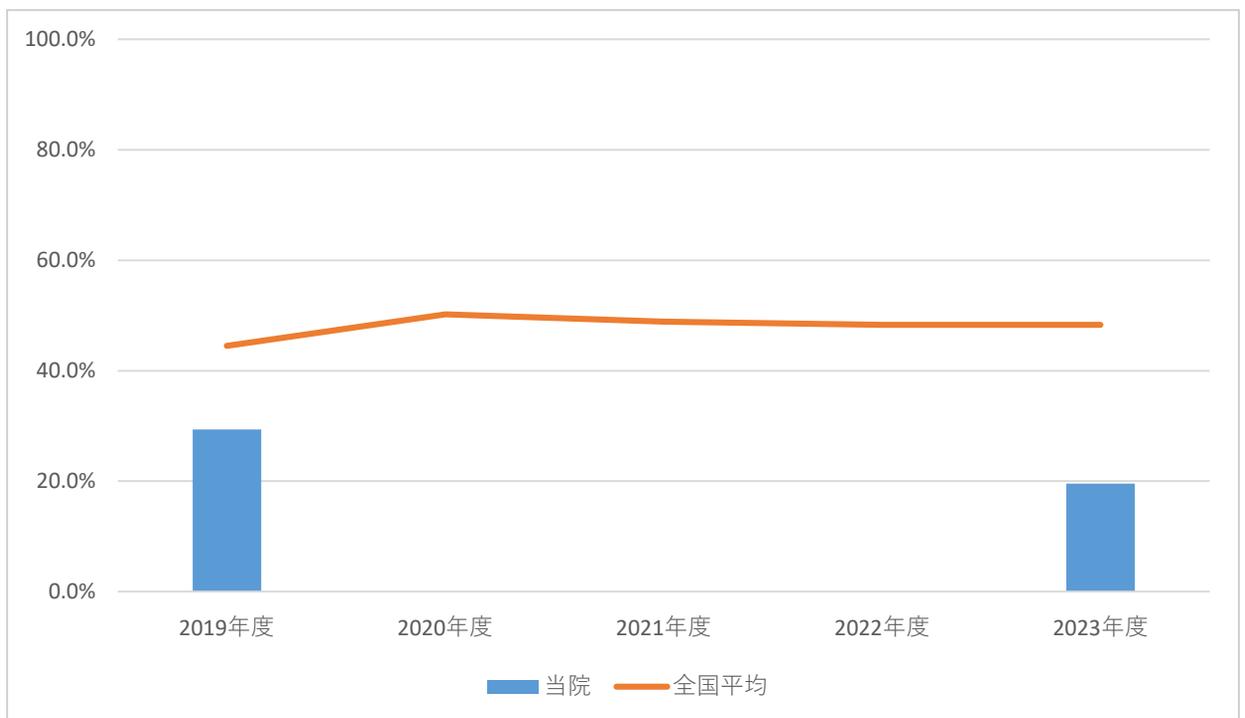
受けた治療の結果、安全な治療に対する患者の満足度をみることは、医療の質を測るうえで直接的な評価指標の重要な一つです。
より高い値が望ましく、支持されている病院だと評価されます。

定義

分母：外来患者への満足度調査項目「この病院について総合的にはどう思われますか?」の設問有効回答数
「不満/やや不満 / どちらともいえない/やや満足/満足」の5段階の合計数
分子：「満足」と回答した外来患者数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	762				368
分子値	224				72
数値	29.4%				19.6%



指標の説明

より高い値が望ましいとされます。
当院では、患者サービス向上委員会が中心となり、毎年1回「外来患者さんへの満足度調査」を行っております。
新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度～2022年度は実施できませんでした。
5段階評価で最高評価である「満足」と回答していただいた割合です。
いただいた貴重なご意見を参考に、今後も医療提供、院内環境、接遇等の改善に努めて参ります。

1-b

患者満足度(外来患者) 満足またはやや満足

指標の意義

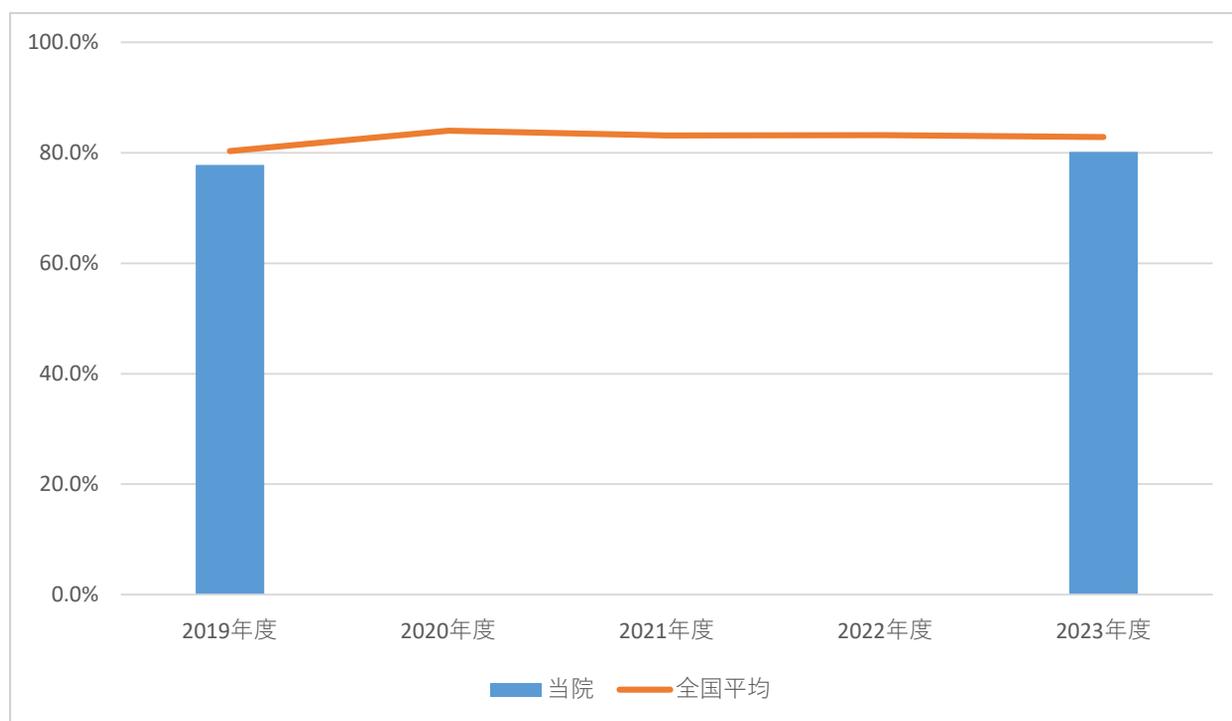
受けた治療の結果、安全な治療に対する患者の満足度をみることは、医療の質を測るうえで直接的な評価指標の重要な一つです。
より高い値が望ましく、支持されている病院だと評価されます。

定義

分母：外来患者への満足度調査項目「この病院について総合的にはどう思われますか?」の設問有効回答数
「不満/やや不満 / どちらともいえない/やや満足/満足」の5段階の合計数
分子：「満足」または「やや満足」と回答した外来患者数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	762				368
分子値	593				295
数値	77.8%				80.2%



指標の説明

より高い値が望ましいとされます。
当院では、患者サービス向上委員会が中心となり、毎年1回「外来患者さんへの満足度調査」を行っております。
新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度～2022年度は実施できませんでした。
5段階評価で4と5の評価である「満足」「やや満足」と回答していただいた割合です。
いただいた貴重なご意見を参考に、今後も医療提供、院内環境、接遇等の改善に努めて参ります。

2-a

患者満足度(入院患者) 満足

指標の意義

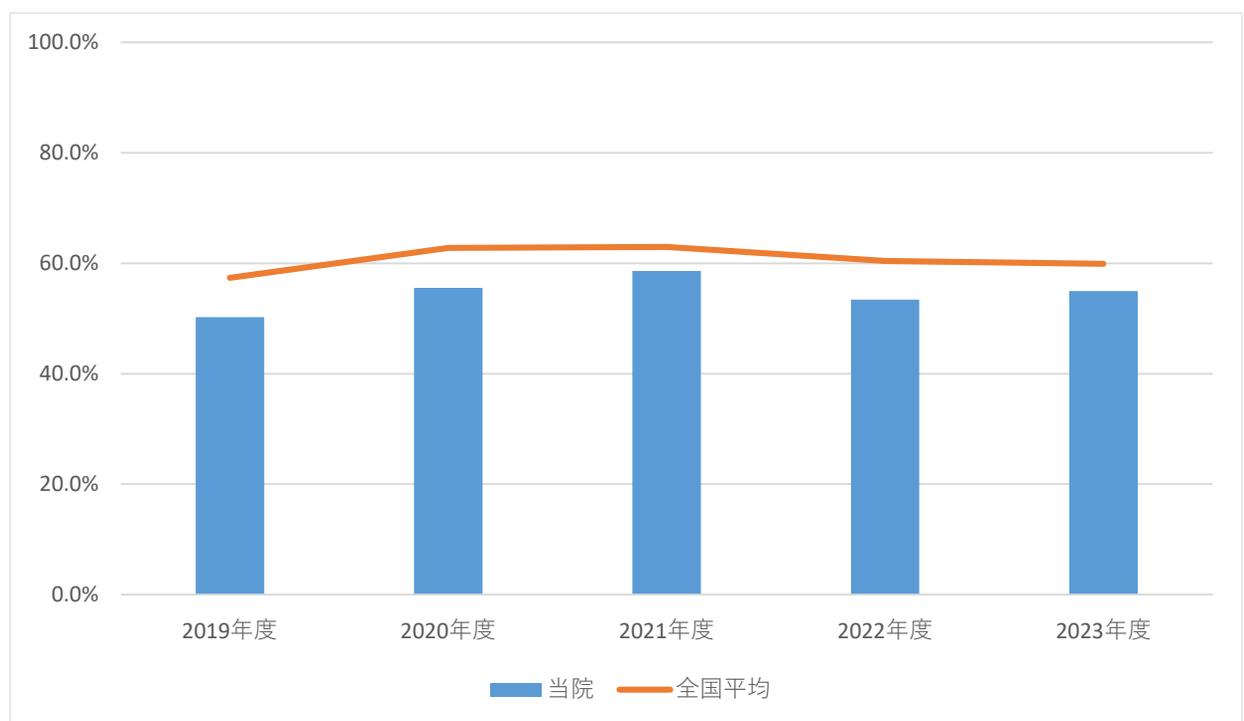
受けた治療の結果、安全な治療に対する患者の満足度をみることは、医療の質を測るうえで直接的な評価指標の重要な一つです。
より高い値が望ましく、支持されている病院だと評価されます。

定義

分母：入院患者への満足度調査項目「この病院について総合的にはどう思われますか?」の設問有効回答数
「不満/やや不満 / どちらともいえない/やや満足/満足」の5段階の合計数
分子：「満足」と回答した入院患者数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	418	407	418	294	302
分子値	210	226	245	157	166
数値	50.2%	55.5%	58.6%	53.4%	55.0%



指標の説明

より高い値が望ましいとされます。
当院では、患者サービス向上委員会が中心となり、ほぼ毎日「退院患者さんへの満足度調査」を行っております。
新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、感染対策を講じながら実施いたしました。
5段階評価で最高評価である「満足」と回答していただいた割合です。
いただいた貴重なご意見を参考に、今後も医療提供、院内環境、接遇等の改善に努めて参ります。

2-b

患者満足度(入院患者) 満足またはやや満足

指標の意義

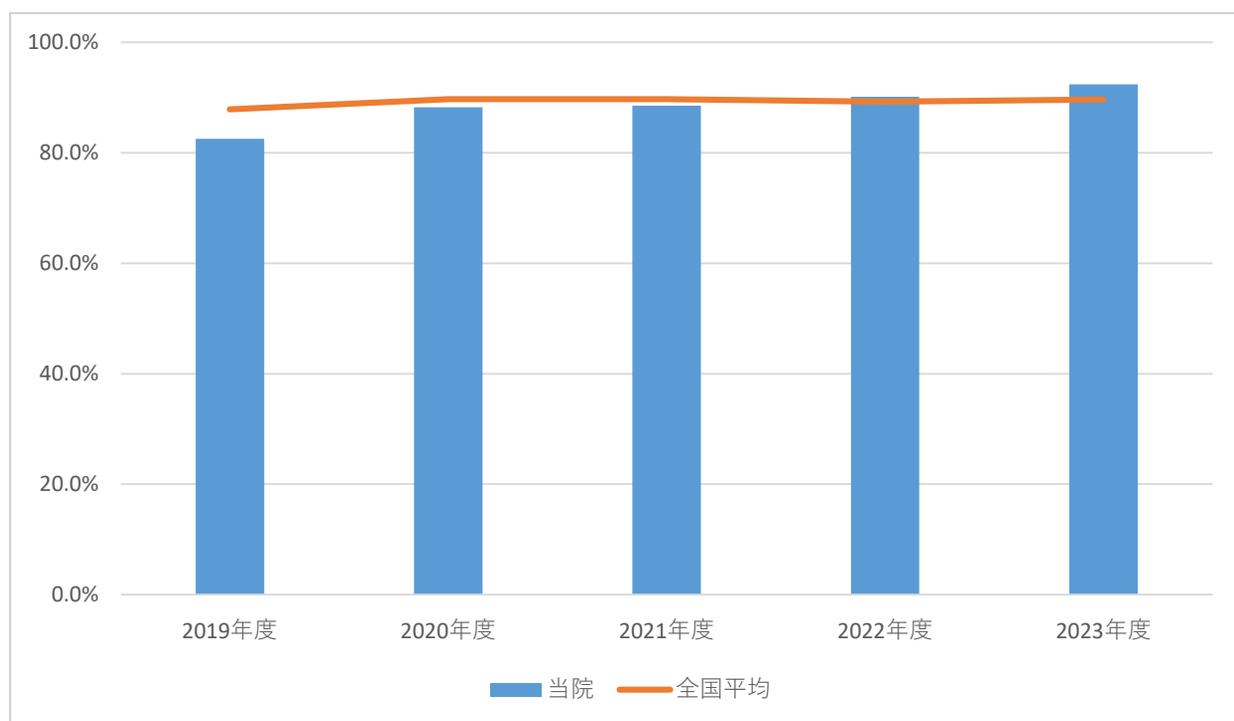
受けた治療の結果、安全な治療に対する患者の満足度をみることは、医療の質を測るうえで直接的な評価指標の重要な一つです。
より高い値が望ましく、支持されている病院だと評価されます。

定義

分母：入院患者への満足度調査項目「この病院について総合的にはどう思われますか?」の設問有効回答数
「不満/やや不満 / どちらともいえない/やや満足/満足」の5段階の合計数
分子：「満足」または「やや満足」と回答した入院患者数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	418	407	418	294	302
分子値	345	359	370	265	279
数値	82.5%	88.2%	88.5%	90.1%	92.4%



指標の説明

より高い値が望ましいとされます。
当院では、患者サービス向上委員会が中心となり、ほぼ毎日「退院患者さんへの満足度調査」を行っております。
新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、感染対策を講じながら実施いたしました。
5段階評価で4と5の評価である「満足」「やや満足」と回答していただいた割合です。
いただいた貴重なご意見を参考に、今後も医療提供、院内環境、接遇等の改善に努めて参ります。

指標の意義

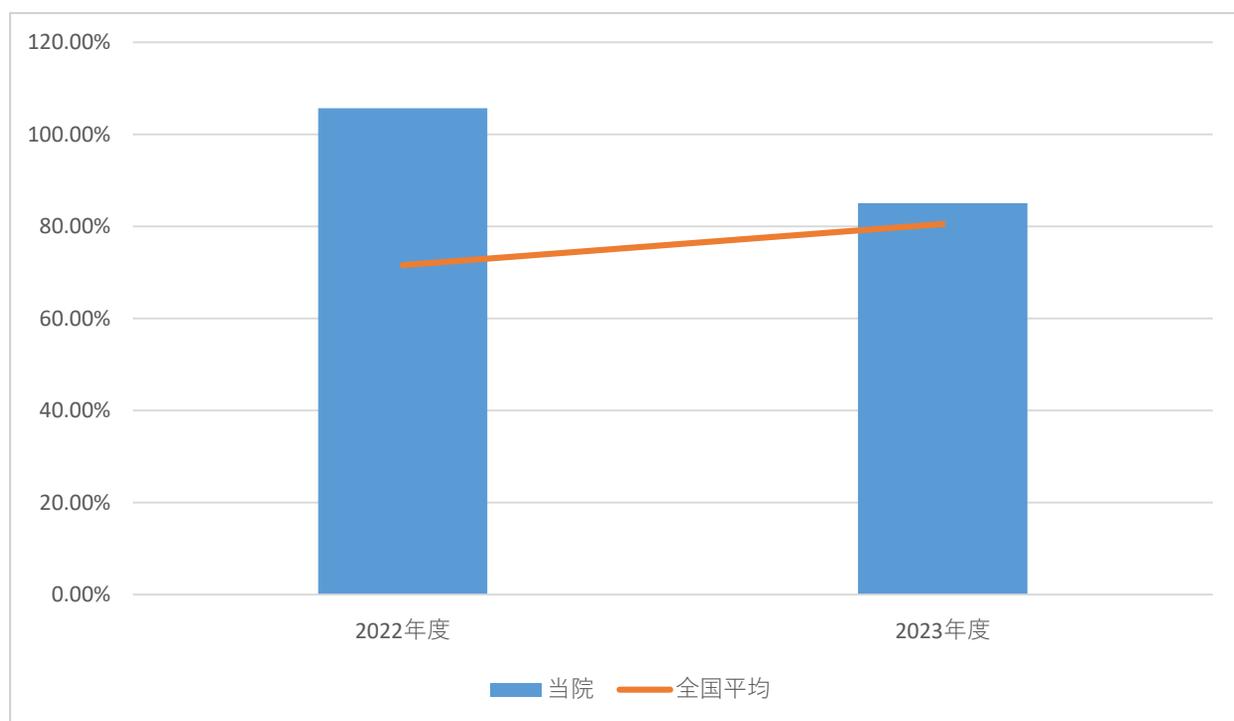
紹介割合とは、初診患者に対し、他の医療機関から紹介されて来院した患者と救急患者における割合です。
 高度な医療を提供する医療機関にだけ患者が集中することを避け、症状が軽い場合は「かかりつけ医」を受診し、そこで必要性があると判断された場合に高い機能を持つ病院を紹介受診する、地域の医療機関との連携の度合いを示す指標です。

定義

分母：初診患者数
 分子：（紹介患者数＋救急患者数）

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値				14,080	18,871
分子値				14,878	16,048
数値				105.7%	85.0%



指標の説明

当院は、2015年5月21日付けで地域医療支援病院、2023年7月1日付けで紹介受診重点医療機関の指定を受けました。地域の医療機関との連携を強化しこの地域における役割を果たすために日々取り組んでおります。
 全国平均よりも高く、地域の皆様が紹介状を持参のうえ受診していただけている状況です。今後とも、ご理解とご協力の程よろしく申し上げます。

指標の意義

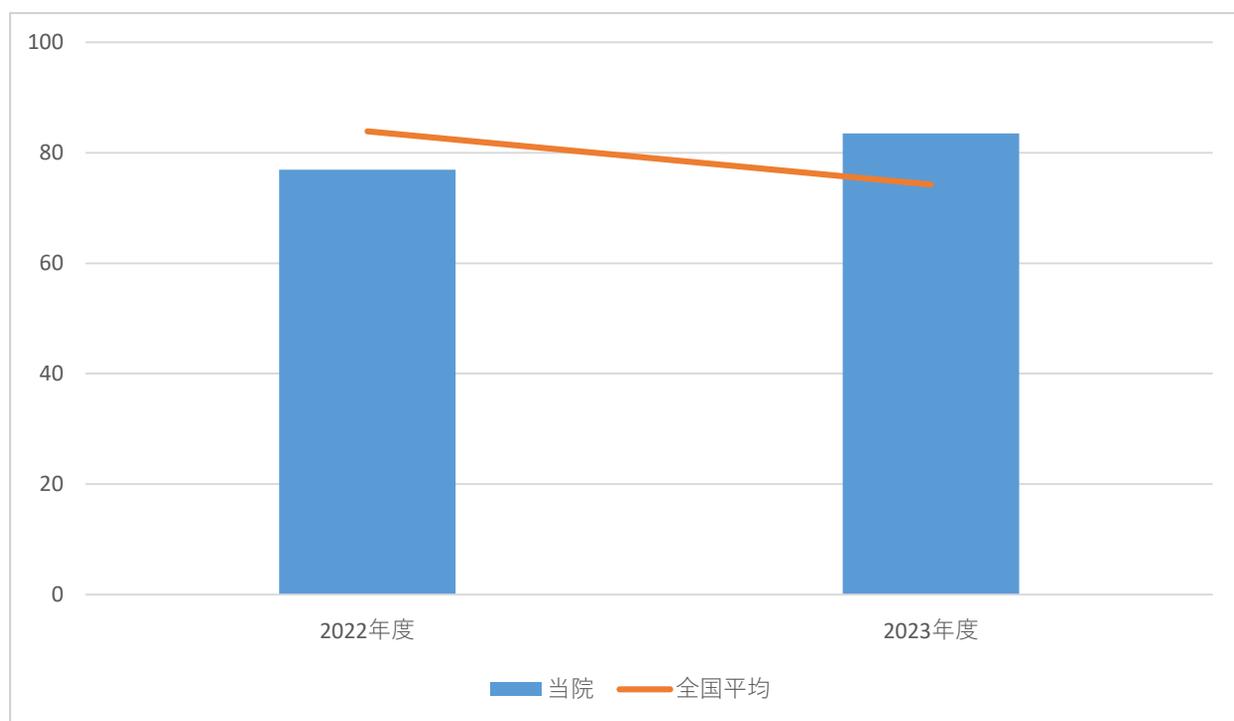
逆紹介割合とは、初診患者と再診患者に対し、他の医療機関へ紹介した患者の割合です。
 治療を終え症状が落ち着いたら、「かかりつけ医」へ逆紹介し、治療を継続または経過を観察することを、地域全体として行うことで、地域の医療連携を強化し、切れ目のない医療の提供を行います。地域の医療機関との連携の度合いを示す指標です。

定義

分母：(初診+再診患者数)
 分子：逆紹介患者数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値				139,156	143,942
分子値				10,701	12,015
数値				76.90%	83.47%



指標の説明

当院は、2015年5月21日付けで地域医療支援病院、2023年7月1日付けで紹介受診重点医療機関の指定を受けました。地域の医療機関との連携を強化しこの地域における役割を果たすために日々取り組んでおります。
 全国平均よりも高く、治療を終え症状が落ち着いたら、「かかりつけ医」への逆紹介がスムーズに行えている状況です。今後とも、ご理解とご協力の程よろしくお願ひします。

指標の意義

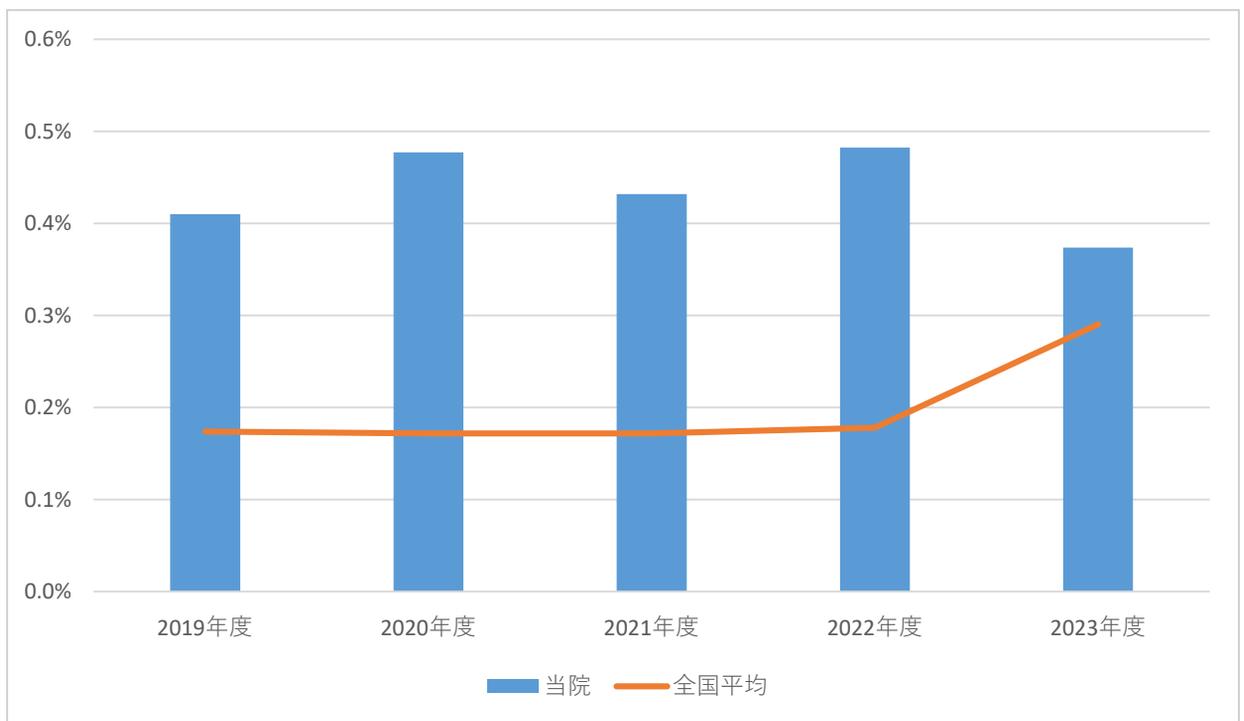
尿路感染症は医療関連感染の中でも最も多く、約40%を占め、その80%が尿道留置カテーテルによるもの、すなわちCAUTI(catheter-associated urinary tract infection)です。医療機関で起こる血流感染の15%はCAUTIの合併症であると推計されており、その寄与死亡率は15%を超えます。CAUTIのリスクは医療機関、部署、患者の特性に左右されますが、エビデンスレベルが高い予防策の実施により、CAUTIの65%-70%は予防可能と推計されています。

定義

分母：入院患者における尿道留置カテーテル挿入延べ日数
 分子：分母のうちカテーテル関連症候性尿路感染症の定義に合致した延べ回数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	19,761	16,564	16,903	19,488	21,399
分子値	81	79	73	94	80
数値	0.410%	0.477%	0.432%	0.482%	0.374%



指標の説明

より低い値が望ましいとされます。
 全国平均よりも高い割合となっております。
 膀胱留置カテーテルの管理を改善し、カテーテルに関連して起きた尿路感染症を減らすために、早期に患者の排尿機能を把握し、早期の尿道カテーテル抜去を試みることを目標とすることや、尿道カテーテル抜去不能症例においては尿の性状を見ながら早期の尿道カテーテル交換の検討することが必要となります。
 排尿ケアチームの設置が今後の課題です。

指標の意義

救急医療の機能を測る指標であり、救急車受け入れ要請のうち、何台受け入れができたのかを表しています。

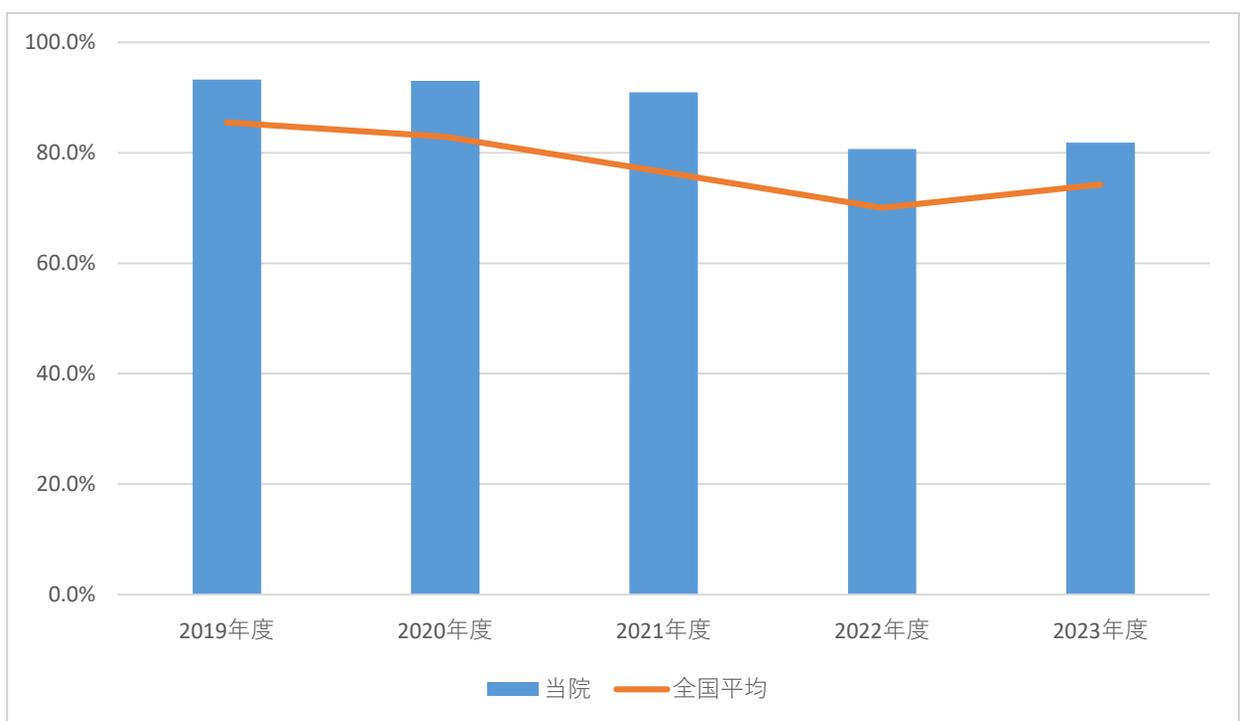
本指標の向上は、救命外来に関連する部署だけの努力では改善できません。救急診療を担当する医療者の人数、診療の効率化、入院を受け入れる病棟看護師や各診療科の協力など、さまざまな要素が関与します。

定義

分母：救急車受け入れ要請件数
 (※分母除外：他院からの搬送(転送)件数)
 分子：分母のうち救急車で来院した患者数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	3,754	3,250	3,849	5,029	5,013
分子値	3,500	3,023	3,501	4,058	4,013
数値	93.2%	93.0%	91.0%	80.7%	84.6%



指標の説明

より高い値が望ましいとされます。脳卒中、急性心筋梗塞、急性腹症、小児をはじめひとりでも多く救命できるよう「断らない救急」を目指し、体制を整えて救急診療にあたっています。

全国平均と比較して高い応需率を保つことができています。

【救急車搬送受入台数】(参考)

令和元年度 4,210台 令和2年度 3,619台 令和3年度 4,152台

令和4年度 4,703台 令和5年度 4,793台

※分母・分子は他院からの搬送(転送)件数が除かれているため一致しません

13

退院後4週間以内の予定外再入院割合

指標の意義

患者の中には、退院後に予定外の再入院をすることがあります。その要因は一概には言えませんが、例えば入院時の治療が不十分であった、早期退院を強いた、予想外に症状の悪化が進んだ、前回の入院とは関連のない傷病・事故などが考えられます。避けられる要因、避けられない要因ともに様々考えられます。

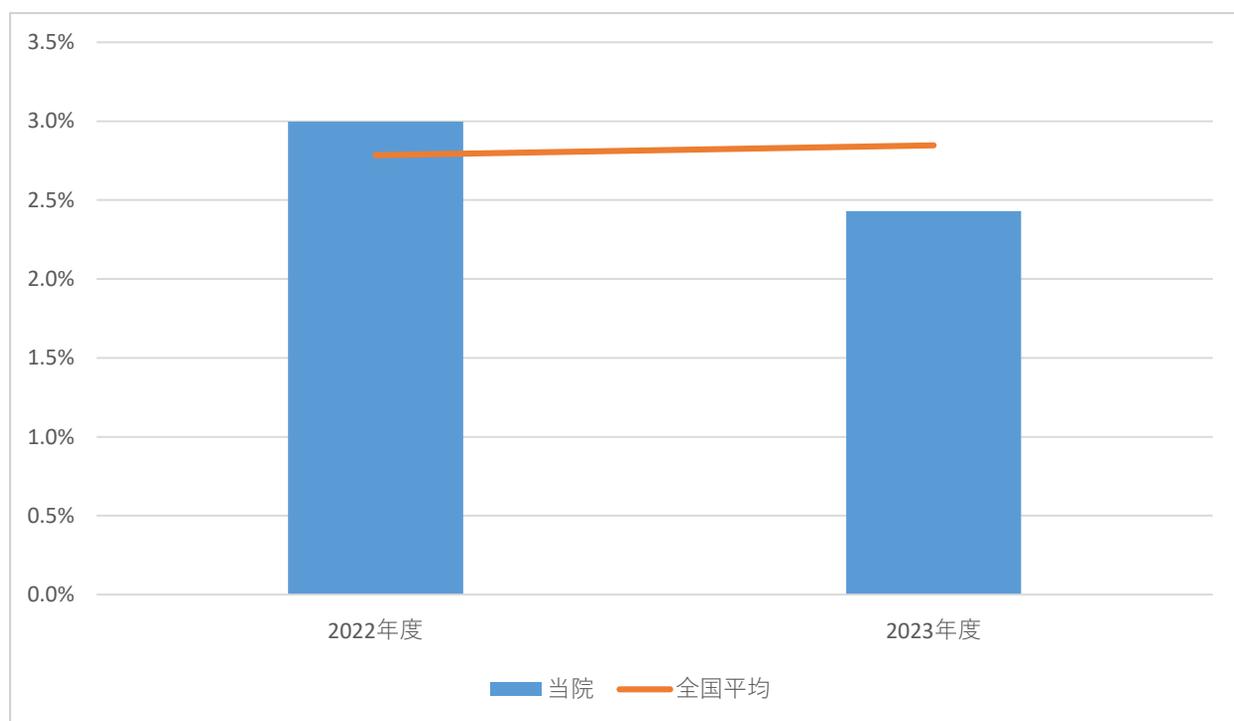
定義

分母：退院患者数

分子：前回退院から4週間以内に計画外で再入院した患者数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値				7,640	7,653
分子値				229	186
数値				3.00%	2.43%



指標の説明

より低い値が望ましいとされます。

予想外に症状の悪化が進んだり、前回の入院とは関連のない傷病などで入院することもあるため、予定外の入院をなくすことはできませんが、できるだけ減らしていく必要があります。

理由の内訳としては、「新たな他疾患発症のため」、「原疾患の悪化、再発のため」、「原疾患の合併症発症のため」の順でした。

14

退院後7日以内の予定外再入院割合

指標の意義

退院後に予定外の再入院をすることがあります。その要因は一概には言えませんが、例えば入院時の治療が不十分であった、早期退院を強いた、予想外に症状の悪化が進んだ、前回の入院とは関連のない傷病・事故などが考えられます。避けられる要因、避けられない要因ともに様々考えられます。

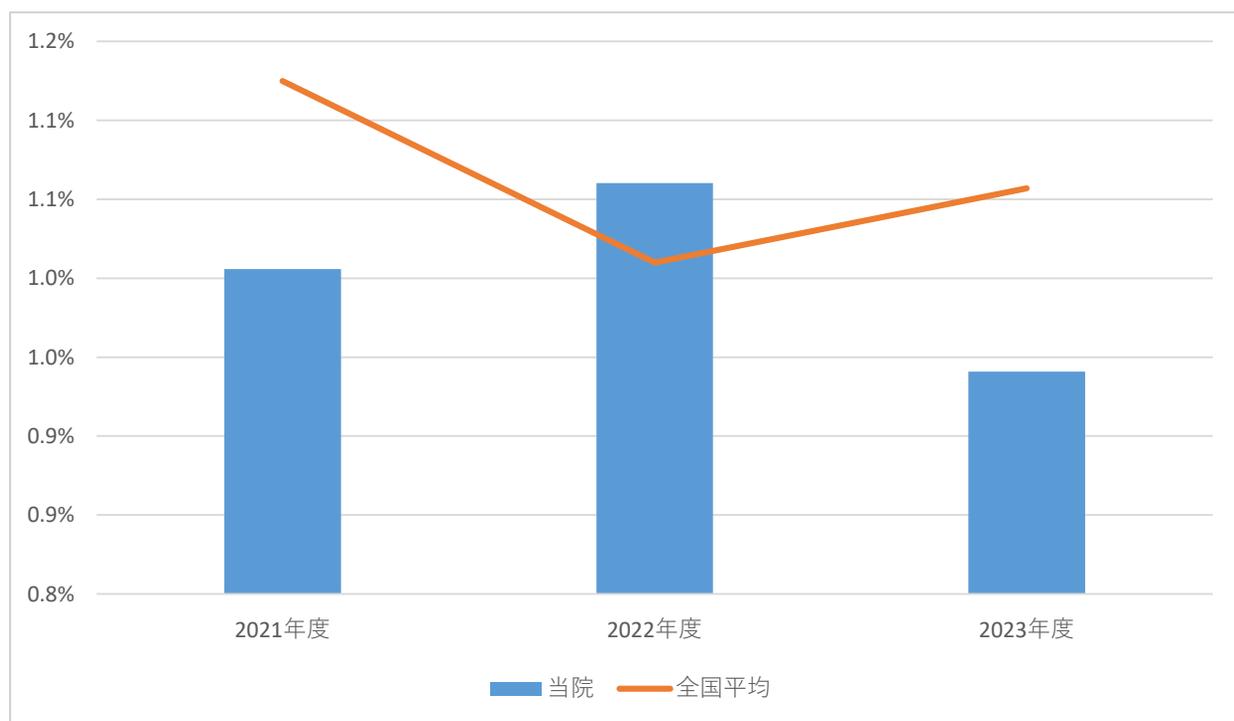
定義

分母：退院患者数

分子：前回退院から7日以内に計画外で再入院した患者数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値			8,053	7,640	7,653
分子値			81	81	72
数値			1.01%	1.06%	0.94%



指標の説明

より低い値が望ましいとされます。当院の数値は全国平均と比較してやや低い水準であり、入院中の治療計画の適切な管理や退院後のフォローアップ体制が効果的に機能していることの証と考えます。予想外に症状の悪化が進んだり、前回の入院とは関連のない傷病などで入院することもあるため、予定外の入院をなくすことはできませんが、できるだけ減らしていく必要があります。今後も多職種連携を強化し、患者様が安心して退院できる環境をさらに整えてまいります。

67-1

病床稼働率(一般病床300床)

指標の意義

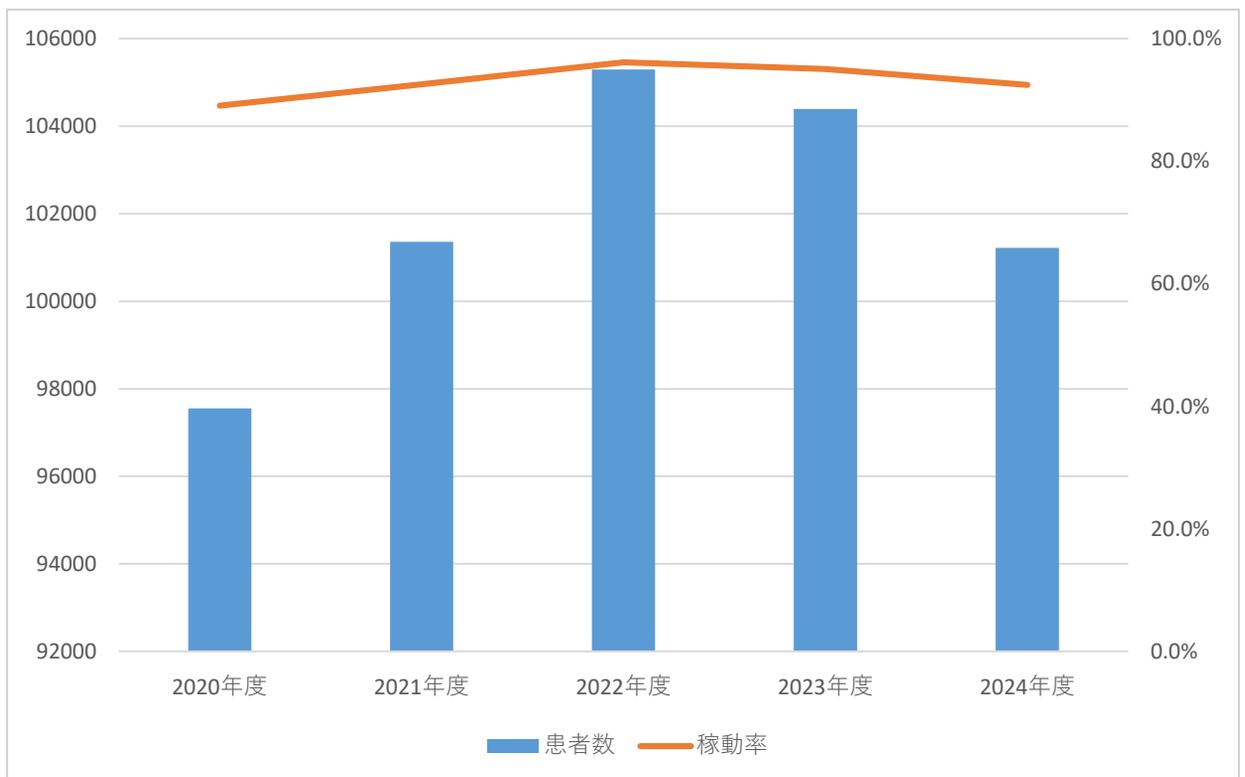
当病院の許可病床としての300床の稼働率です。病床がどの程度、稼働しているかを示す指標です。100%に近いほど空き病床が無い状態です。

定義

分母：許可病床300床×年間の入院診療日数
分子：年間の在院患者延べ数＋年間の退院患者数

当院の実績

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
患者数	97,552	101,357	105,294	104,392	101,219
稼働率	89.1%	92.6%	96.2%	95.1%	92.4%



指標の説明

より高い値が望ましいとされます。病床のフル活用を目標として医療提供体制の充実を図っております。多職種連携を強化し、各部門が密接に協力することでスムーズな診療を提供しています。今後も、より安心できる医療環境を提供できるよう努めてまいります。

68-1

平均在院日数(一般病床300床)

指標の意義

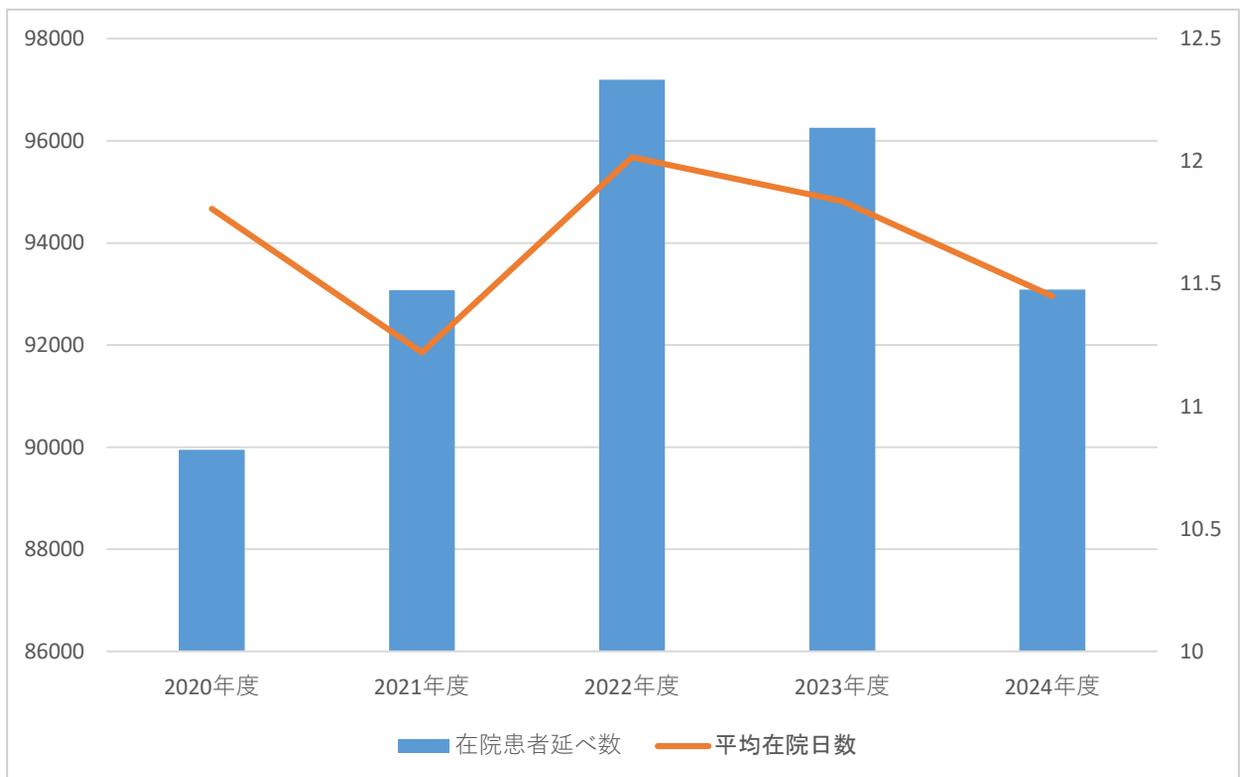
患者さんが病院に入院している期間の平均を示す指標です。
この数値は、医療提供の効率性や治療の進行状況を評価するために用いられます。

定義

分母：(年間の新入院患者数＋年間の退院患者数)×1/2
分子：年間の在院患者延べ数

当院の実績

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
患者延べ数	89,946	93,071	97,196	96,254	93,085
平均在院日数	11.81	11.22	12.02	11.84	11.45



指標の説明

より低い値が望ましいとされます。
重症度や疾病によって入院日数に違いがありますので、単純に比較することはできません。医療の質の向上と病床利用の効率化が高いレベルで達成されているほど、短縮します。
単に短いから良いわけでは急性期医療の充実を図りつつ患者満足度を考慮しながら、適切な病床運営を目指しています。